

科目名：児童文化 I		講義・演習	担当教員名： 大迫 京子
			実務経験： 有
2 年次 後 期	2 単位		選択必修 / 必修
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>子どもを取り巻く環境の現代的課題等を踏まえ、「児童文化財」の特徴や保育の実践への活用方法を学ぶ。</p> <p>①現在の子どもを取り巻く環境に目を向け、問題意識を持ち、理解することができる。</p> <p>②子どもたちの文化財にどのようなものがあるか理解することができる。</p> <p>③児童文化の活用方法を習得、柔軟に日々の保育へ展開する力を身に付けることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>現在の子どもを取り巻く環境について考えることから始まる。「児童文化」と呼ばれる子どもたちの文化財について知り、簡単な遊びや創作活動等も取り入れながら、児童文化への関心を育て、保育への展開の仕方を学ぶ。自分の幼少期をふり返ることで、子どもの世界を見つめる機会をつくり、子どもにとっての遊びの意義や、心身の発達について理解するとともに、多様な児童文化財の特徴や活用方法を学び、児童文化の充実を図る力と態度を養う。</p>			
授業計画			
1	子どもが世界と出会うとき 児童文化を知る		
2	子どもにとっての「遊び」―「遊び」体験とは何か？		
3	文化における子どもの遊び―伝承遊びの暗がりへ		
4	「おもちゃ」の生命―伝統的玩具と流行玩具		
5	「おもちゃ」の性差―「勝つ」ことと「かわいい」こと		
6	「おもちゃ」の教育性／遊戯性―「おもちゃ」の可能性とは？		
7	「おやつ」の文化・お菓子の変遷		
8	「おまけ」の文化―事件が語る魅力と問題		
9	テレビ文化からゲーム文化へ―魅力と批判		
10	子どもが「絵本」と出会うとき―「絵本」というメディア		
11	「絵本」の中の動物―擬人化の意味		
12	子どもと共有する「アニメ」―「アニメ」というメディア		
13	メディアの変化を伴う子どもの文化		
14	再び「遊び」を問う―原っぱから電子空間へ		
15	人間社会における「児童文化」―「子ども」探究の意味するところ		
<p>テキスト</p> <p>『〈子供〉の誕生―アンシャン・レジーム期の子供と家族生活』フィリップ・アリエス 著</p> <p>『文化的営みとしての発達―個人、世代、コミュニティ』バーバラ・ロゴフ 著</p>			
参考書等 各授業ごとに論文を使用する。			
<p>評価の方法</p> <p>(1)授業態度：15% (2)レポートや課題：15% (3)試験：70%</p>			